

学校点描

1か月半以上経てようやく中学生の声が、校舎に響きわたりました。

《K中学校》

NO.2 R2. 4. 27

担当：校長

24日と27日と分けて、始業式、入学式を行うことができました。ようやく、令和2年度をスタートします。しかし、すぐに5月10日まで休業となります。大都市のまだまだ収まらない感染の状況、有名人が亡くなった報道を聞くと、非常事態宣言の期間が延期になるのか、それに伴い、学校休業日も延期になるのか心配は消えません。始業式の後は時間をずらして週に1回登校日を設定します。家庭科のマスクづくりの授業をします。

先週の新聞に、全国中学校総合体育大会が中止に向けて検討されていることが記事になっていました。高校総体（インターハイ）も同様です。スポーツで目標を掲げてきた生徒たちが目標を失ったあとが心配です。

今学校の悩みの一つは、このまま休業が続くと授業時数が足りなくなることです。一説によると、秋に再びコロナ感染の第二波が来るとも言われています。学校が休業中、教員同士でいろいろ検討してきました。その一つがインターネットを利用したオンラインでの授業配信です。しかし、調査すると各家庭でネットワークの環境が大きく違うということがわかりました。また、使用する無料会議用アプリの安全性について警鐘を慣らしてくれた保護者の方もいました。ありがたいことです。4月末に試験的に始めようと思っていた試みですが、もう少し時間をかけて検討してきます。

元全日本サッカー監督にイビツァ・オシムという方がいます。彼は、チームがどんな苦境のときでも、常に冷静に采配を振るう世界屈指の指導者でした。その彼の言葉に「考えてから走るな！走りながら考えろ！」があります。この言葉を今の学校、いや日本全体が地でいっています

蛹（さなぎ）の時代

4月24日（金）は午前中3年生に始業式を行い、午後は新入生の入学式を行いました。校長式辞で、檀上から初めてみる3年生の生徒たちを見ると、その姿は、私の予想以上のものでした。静寂した雰囲気の中にも、凜とした強さを感じます。どの生徒も顔をあげ真剣なまなざしでこちらに視線を投げかける瞳と目があいます。きっと、新年度がいよいよ始まった期待感や金山中の顔となった誇りなどが入り混じった感じなのかもしれません。中には、私の話にも、うなずいて聴いてくれる女子生徒がいました。立派な、3年生と出会いました。これなら、2年生、1年生のよき目標になります。教務主任の矢口先生が、「では、本年度の教職員の先生方を紹介します。」と言うと、誰も指示を出さなくても全員、体の向きを変えます。そんな立派な3年生の下校の様子を校長室から見ました。緊張感から解放され、からかい合ったり、いたずらしながら楽しそうに帰る生徒、ややうつむき加減に帰っていく生徒さまざまです。

午後の入学式の新入生の姿にも立派なものを感じました。中学生の制服に身をまとい、緊張感の中にも、やる気が感じられます。一方で、生徒呼名の返事は、やや遠慮気味な様子もうかがえます。椅子が離れていたり、まだまだ慣れていないことなのでしょう。新入生の代表のことばを行ってくれたK・Rさん。「部活動や勉強にも全力でむかっていきたい」と力強く語ってくれました。

写真撮影で多目的ホールに集まった1年生の様子をみると、ようやく式の緊張感から解放された地の姿をみることができました。

本日、27日（月）は、2学年の始業式です。どんな表情をするのか楽しみです。

大人になると、めったに林や藪の中に行くことも少なくなり、蛹（さなぎ）を見るのが少なくなりました。蛹（さなぎ）とは、昆虫の中の一部のもので、成虫になる寸前にとる、ほとんど動かない時期をさします。中学時代は、そんな蛹（さなぎ）の時期に非常によく似ていると思います。外見では、中がどうなっているのか一切わかりません。じっと動かないので、生きているのか死んでいるのかさえわかりません。だからといって、無理やり、蛹（さなぎ）を割って、中を開いてしまうと、幼虫は死んでしまいます。あくまでも、幼虫自身が蛹（さなぎ）の殻を割って出てこなくてはならないのです。



子育ても教育もそこが肝心です。

たとえ、周りから“立派”と言われる生徒であっても、また、毎日明るくあいさつを交わしている生徒であっても、見えないところでは、どろどろしたいろいろな思いを持っているのが中学生です。言いようもない苦しさや辛さを、思春期という蛹（さなぎ）の中にしっかりと抱えて、それでもいつか必ず自分から殻を割って出ていきます。

保護者は誰でも、子どもには楽な生活、苦勞のない生活、何も問題がない生活を送らせたいという気持ちはあります。ただ、それだけでは、この蛹（さなぎ）から、自分の力で割って出てくる力は養えません。時に、自分と周りの人の力を推し量ったり、自分の力の足りなさに挫折したり、思いが通じない友人関係で悩んだりしたことが、後に、蛹（さなぎ）を破って社会で自立するときのたくましいエネルギーになるのです。

記念写真を撮り終えて、真新しいかばんを持って下校です。

「あのクラスでうまくやれるかな？」と、一人の新入生の不安そうな声が聞こえます。

「なんでも経験だよ。がんばって！」と、お母さん。

小雨が降る中、そんな会話をしながら1組の親子が帰っていきました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp